

短 歌

【小学1年生・2年生】

特 選 るるるるんみんなであるくたんぼみち

ランドセルたちスキップしてる

稲枝東小学校1年 有田 芽唯

(評) みんなで仲よく元気に学校へかよっているようすがわかります。一年生になっ
たよろこびうれしさもかんじます。ランドセルたちのスキップがとてもおもしろく
明るく楽しい良い歌です。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 おいしそういちばんすきなしおむすび

よだれがでちゃういただきます

城南小学校1年 小菅 紬生

(評) 大すきなしおむすび今たべようとしてるところを歌にしたのが良かったと思
います。

どんなおむすびだったのかな。お母さんの味おいしかったのでしょね。

(彦根文芸協会 森 典子)

入 選 くるまでねおでかけするとおもしろい

つくまでずっとなぞなぞたいかい

平田小学校1年 佐野 碧哉



【小学3年生・4年生】

特選 落ちないで線こう花火じゅじゅじゅじゅ
もうすこしだけあと少しだけ

城北小学校3年 木原 寧音

(評) 線香^{せんかう}花火をしてしているようす。作者の気持ちがよく詠^よまれています。じゅじゅじゅという表現、そして「すこしだけあと少しだけ」と平仮名と漢字の使い方が、とても良い歌です。短歌、これからもつづけてください。

(彦根文芸協会 森 典子)

特選 おもしろい理科はたのしいむずかしい
ほねやきん肉気温に星座

稲枝東小学校4年 萩野 結人

(評) 今まであまり気にしていなかった身近なことを理科で習い、おもしろさ、楽しみに気づかれたのでしょうか。もともとと勉強したいという作者の前向きな思いも伝わります。良い歌です。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 だんご虫ボールになってころがった
そっと葉っぱでつついてみたよ

城東小学校3年 江口 果凛

(評) だんご虫がころがって、手ではなく葉でそとつついているようすがほほえましく目に見えるようです。やさしさも感じられます。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 秋の夜すず虫たちがたくさん
すず虫よんでえんそう会だ

城東小学校3年 松田 帆高

(評) 夏がすみ、少しすずしくなるとリンリンリンとすず虫がなきはじめます。たくさんすず虫たちのなき声をえんそう会とされたのが良かったと思います。この気持ちを大切に歌をつづけてください。

(彦根文芸協会 森 典子)

準特選 弟の宿題教える日曜日
おかげですすまぬわたしの宿題

城東小学校3年 菅居 咲希

(評) 弟思いのやさしい作者。わかりやすく、ていねいに教えてあげているのでしよう。自分の宿題も早く済ましたいという思いも伝わります。リズムの良い作品です。

(彦根文芸協会 森 典子)

佳作 自転車の練習とてもがんばった

これで行けるよ友だちの家

城東小学校3年 樋口 心陽

佳作 夏の色あざやかな色青い色

夏といたら青空だから

城東小学校3年 高橋 權里

佳作 かいがらを耳にあてるといい音だ

ザブンザブンときれいな音色

稲枝東小学校4年 大西 美羽

佳作 リビングでママがおけしようだれなのか

いつもとちがうママの顔だよ

城東小学校3年 佐藤 梨々愛

佳作 朝ねぼうとけいをとる手力こめ

六時をいのりのりとどかず

稲枝東小学校4年 廣野 来美

入選 雨の日のかさの上から音がなる

リズムにのって楽しく歩く

平田小学校4年 松山 暁士

入選 空の顔晴れの日笑って雨は泣く

わたしは笑う顔が好きだよ

稲枝東小学校4年 古川 ほなみ

入選 雨の日のしずくの色は何色か

悲しいときのなみだ色かな

稲枝東小学校4年 平田 果帆

入選 お月さまいろんな形あるけれど

まんまる月は一番きれい

城北小学校4年 渡 優衣

入選 黒板に予想がいろいろ出てきたよ

答えにつながる頭のめいろ

稲枝東小学校4年 林 新

入選 わすれ物わすれていてもおこられる

毎日わすれ自分におこる

稲枝東小学校4年 中川 瑛都

【小学5年生・6年生】

特選 虫の音を聞きに歩いた玄宮園

マスク越しでも伝わる笑顔

旭森小学校6年 宮川 杏弥

(評) 虫の音を聴くために玄宮園に入り、コロナ禍マスク越しにでも伝わった笑顔。うまくまとめられました。この調子で、短歌をたくさん作ってください。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

特選 せっかくの修学旅行中止でも

できる限りの思い出作ろう

城東小学校6年 橘 崇道

(評) コロナ禍のために、修学旅行が中止になりました。それでも、四句、結句に作者の思いがよく利いています。「思い出作り」は、「人生の宝もの」です。がんばりましょう。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 思いやりやきいものようにほくほくと

あたたかい秋にぎやかな秋

稲枝北小学校6年 中川 紗世

(評) 秋です。さつまいもを食べられたことから、ほくほくと、と思いやりにつなげて、感性のゆたかな短歌になりました。日記を書くような気持ちで、気の付く時に、ペンをとって短歌を作ってみましょう。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 夕ぐれにちらりと外をみいやれば

草かりをする祖母の背のかげ

城西小学校6年 宮下 響

(評) 草かりをしている祖母をみつけて、草をかることの大切さをあんもくの内に教わったという。日常のくらしの中に、短歌をつくるヒントをみつけることができました。これからも、よい歌をたくさん作ってください。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選 みんなでさこまってる人たすけよう

みんなにこにこ明るくてらす

稲枝北小学校6年 滝 あおい

(評) コロナ禍で、三密をさげ自宅にこもる生活が続いています。働いていた人が急にやめなければならなかったり、色々な理由で困っている人が増えています。お互いに助け合い、明るく前向きになろうという気持ちが伝わってきました。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)

準特選

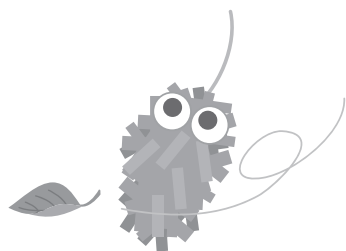
あきの夜はヒューンと風がふきはじめ
パーカーなしではハックション

佐和山小学校6年 富藤 理修

(評) 風の変わり目は季節の変わり目。リズムカルな調子で夏から秋への移ろいが
かんじられるよい作品です。

この調子で短歌をたくさん作ってください。

(彦根文芸協会 長谷川 紀子)



佳作 楽しみは家族みんなで行き

全部で三けたつり上げた時

鳥居本小学校6年 安田 有輝歩

佳作 最悪な新型コロナ広まって

ワクチンいつにできるのでしょうか

鳥居本小学校6年 小山 穂乃香

佳作 来年はマスク外して迎えたい

みんなでワチャワチャ中学生活

鳥居本小学校6年 後藤 咲良

佳作 もみじがね木から川へとまいおる

赤くそまったきれいなもみじ

稲枝北小学校6年 辰己 恵衣

佳作 夜になりずしきました秋の日の

楽しみ増えた星空観察

稲枝北小学校6年 寺井 莉菜

入選 いじめゼロ相手を思うふわふわ言葉

それはまさに心のカイロ

稲枝北小学校6年 早崎 優奈

入選 山登りやつのことで頂上に

見わたすかぎりまっ赤な紅葉

城西小学校6年 毛利 心咲

入選 今日だけは昼夜平等夜長し

六百秒がちよっぴり多い

城西小学校6年 白井 かのん

入選 児童会みんなで花火のあたたかさ

コロナの中のうれしい行事

城西小学校6年 安達 史織

入選 街中を赤や橙で染めていく

優しい風が紅葉を運ぶ

佐和山小学校6年 小川 千晶

入選 秋の夜の月見だんごをつまみつつ

見る満月にうさぎいるかな

佐和山小学校6年 屋成 潤太郎

【中学生】

特選 秋風に吹かれ気分はすがすがしい

こんな平和が続くといいな

中央中学校2年 小野 天斗

(評) 生きていると、楽しいことがあつてほしいのですが、健康のこと、天候のこと、災害やコロナのような感染症など、苦しむこともいっぱいあります。秋はすがすがしい風が吹いて気分もよく「こんな平和が続くといいな」と思えてくる。これを上手に表現されました。

本当にみんな幸せでありたいですね。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特選 部活動ボールにむかって走る日々

弱音ははけない先輩だから

中央中学校2年 小原 徳斗

(評) 苦しいことがあつても、いつかきつと良い日がくるだろうと、部活動には汗をかいて大変な努力をしなければなりません。しかし、続けることが大切で、先輩の手本にもならないといけません。「弱音ははけない先輩だから」の結句がよく効いていて、良い歌になりました。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特選 渡り鳥風に負けじと飛ぶ姿

前へと進む勇気をくれる

河瀬中学校2年 田川 結衣

(評) 渡り鳥たちは集団になって、吹く風にも負けないように頑張つて飛んで来ます。一生懸命前へと進む姿が、作者に勇気をくれるという。勉強にも部活にも前向きな姿勢が大切で、これからも頑張ろうという気持ちがよく表現されています。

(彦根文芸協会 河分 武士)

特選 団体で優勝できたその瞬間

みんなに感謝あふれる涙

稲枝中学校2年 山内 優奈

(評) 団体で優勝できたときの喜びがよく表現されています。先生や家族・仲間などに対する感謝の気持ちでいっぱいなの涙があふれたと、その瞬間をとらえて、短歌にしたことがとても良かった。何かが起こった時の瞬間の感動は読む人の心によく響くものです。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 新しい社会の在り方見直され

コロナでうごいた日常生活

中央中学校2年 西澤 桃歌

(評) 今までどおりに社会が動く、感染は広がるばかりで、マスクの使用や手の消毒、ソーシャルディスタンスなど、日常生活が変化しなければならなくなりました。現在の世情を見て、これをテーマにしたのが良かった。新しい社会の在り方と捉えた、良い歌です。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 学校で先輩と呼ばれ「はい」という

何かうれしい自分がある

中央中学校2年 保井 朱哩

(評) 人生には楽しかったり、苦しかったり、色々なことを体験しての今があります。後輩ができて、自分を先輩と呼ばれ、「はい」と答えた、そんな自分になったのだなあと、何だかうれしい様子がよくわかります。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 デイスタンス保って生活するけれど

心の距離はいつでも近い

中央中学校2年 品田 優奈

(評) 近ごろの世の中では、コロナの感染を防ぐために、「密」をさけて生活しなければなりません。何だか寂しい中での思いを上手に歌にされました。結句の「心の距離はいつでも近い」がとても良い表現になりました。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 遅咲きのタンポポ一輪咲いている

私も強く凛と咲きたい

河瀬中学校2年 松宮 花歩

(評) 季節外れか、遅咲きのタンポポに目が止まったのでしょうか。たった一輪が美しく咲く、健気な姿が目につかびます。励まされたのか、作者の思いを「私も強く凛と咲きたい」が結句としてよく効いて、良い歌になりました。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選 暗闇に映えるオレンジおめかしかぼちゃ

いつもは脇役今夜は主役

河瀬中学校2年 志賀 朋佳

(評) ハロウィンのかぼちゃのことだと思えますが、いつもなら脇役のかぼちゃが今夜は主役に踊り出て、おめかしをしているという。テーマのとらえ方が良いのですが、リズムを考えて、「暗闇に映えるかぼちゃのおめかしはいつもの脇役今夜は主役」と欲張らずにどこかを省略してみるのも良いでしょう。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

いままでのくろうとせいかを見せるとき

けっせんの日だこうこうじゅけん

西中学校3年 北川 結愛

(評)

高校受験の日の緊張したようすがよく表現されて良かったと思います。「いままでのくろうと」の「と」は「の」の方が良いでしょう。また、「今までの苦勞の成果を見せる時、決戦の日だ高校受験」と、もう少し漢字を使ってみましょう。より一層良い作品になると思います。

(彦根文芸協会 河分 武士)

準特選

読書の秋いろんな本とふれあえる

私にとってはしふくの時間

南中学校2年 林 結依菜

(評)

読書が好きで、季節が秋になると色々な本が読めるので、至福の時間であると思つてることが歌として、とても上手にまとめられて、良い歌になりました。多くの本を読むと人生が豊かになりますので、これからも続けてください。

(彦根文芸協会 河分 武士)

佳作 マスクして机はなして授業する

去年と違う学校生活

中央中学校2年 池田 梨月

佳作 合唱コンもうあと一月クラスみんなで

優勝目指してがんばるぞ

中央中学校2年 外山 唯

佳作 サッカーで思いを1つに戦った

みんなで取った優勝トロフィー

中央中学校2年 松本 莉右

佳作 ランナーが出たらすぐさまバントサイン

我がが誇るスモールベースボール

中央中学校2年 北川 悠清

佳作 流れ星冷えた夜空にきらきらと

暗い世界が眩しく見えた

河瀬中学校2年 志村 彩歌

佳作 帰り道顔にあたったもみじの葉

気のつかぬ間に秋は来ていた

河瀬中学校2年 平野 董

佳作 前をむき元気になる音楽は

どんなときでも私の支え

南中学校2年 山口 華

佳作 空見あげ星がきらめき夏の夜

レンズのぞけば神話の世界

南中学校2年 山口 桜都

佳作 かぜひいた母の代わりに家事をする

母のい大さ改めて知る

稲枝中学校2年 上林 瑞希

佳作 スイカわり夏を感じる瞬間だ

わったスイカをみんなでたべる

稲枝中学校2年 北阪 瞬也

入選 帰りみちふとみあげたら赤い空

二人でながめた恋の夕ぐれ

中央中学校2年 正木 夢叶

入選 春になり桜がきれいになってきた

今年もたのしくお花見に行く

中央中学校2年 佐々木 恭正

入選 彦根城ブルーライトに照らされて

家族みんなで見上げたあの夜

中央中学校2年 森谷 純礼

入選 君思う若かりし頃の片思い

儂く散った青い思い出

中央中学校2年 北沢 咲登

入選 つばめの子親にめでられすくすくと

秋にたび立つ南の国へ

河瀬中学校2年 三箇 拓海

入選 舞い上がる大きな羽のチョウたちの
体は羽よりとても小さい

河瀬中学校2年 巨椋 佳那

入選 外にでて風を感じてリラックス
癒してくれるスキのダンス

河瀬中学校2年 久米 琥大郎

入選 暗い夜に輝く光やさしくて
おだやかになる月見をすれば

河瀬中学校2年 村山 文菜

入選 春になりまた思い出すあの万葉桜^{サククラ}
みな願いはとどくだろうか

河瀬中学校2年 生子 央

入選 また見よう小指交わした河川敷
脳裏に焼き付く打上花火

河瀬中学校2年 杉本 真心

入選 カサカサの肌まるだしの冬木立
保湿クリームあげようかしら

河瀬中学校2年 柿木 亮祐

入選 汗ながし思いぶつけていどんだら
心が燃えたひと夏の夢

河瀬中学校2年 川村 心桜

入選 ゲームづけ家にこもった自しゆく期間
うれしいようで悲しいような

南中学校2年 市橋 碧

入選 彦根市の心にそびえる金亀城
さあ今度こそ世界遺産に

南中学校2年 北川 統琉

入選 合唱コンみんな心を一つにし
きれいな声の歌を届けよう

南中学校2年 近藤 陽斗

【総評】

新型コロナに感染をしないように心配したこの一年でしたが、そんな中でも去年より多くの皆さんの短歌に出会えたのは、とてもうれしく、喜んで拝見いたしました。

小学生は、低学年（特に一・二年生）の応募が少ないので、回りの方のフォローをお願いしたいと感じます。高学年では、子どもらしい観点から、自然の変化や自分の「見たこと」「楽しかったこと」「頑張ったこと」など今年もよく考えた素直な短歌が多くあり、よかったですと思いました。

中学生は、昨年以上に多くの応募があり、基本に忠実で、よくまとまっている短歌が多かったのは、学校の先生やご家庭の皆様のご指導の賜物と感謝いたします。

部活動、音楽や体育祭など共通のテーマの他にも個性的な努力の跡がみられるので、今後に期待いたします。

短歌作りに大切なことは、まず、新聞や本に書いてあるような良い短歌を多く読んでください。次に、何を詠うのか「テーマ」を考えてから、なるべく多く短歌を作ってください。その中から「これ」と思う自信のある短歌を選んで出すのが望ましいことです。

短歌を作るのは大変だということは一見解りますが、一見して親の作品であったり、どこかで見た歌を出すのはよくないことです。

（彦根文芸協会 河分 武士）